

なるべく正確な大きさの彫りやすい木を準備して、まずは仏足を彫りましょう。

実際の細かい彫り方をお伝えするのは無理なので、ここでは彫るのに大切な考え方を少し説明していきます。

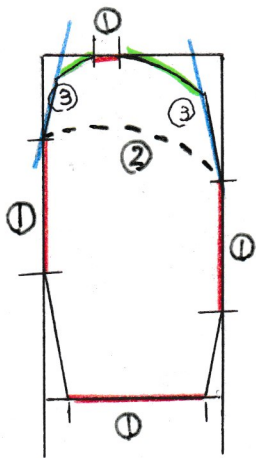
まずは木の4面に**正確に**図面を書き込みます。

言うのは簡単ですが、実はこの**“正確に”**というのがかなりの難問です。

図面はトレースすればするほど精度を失うもの。試してみてください。例えばカーボン紙を使ってもものすごく丁寧に書いたつもりでも、かなりしまらない形になっていると思います。では、どうしたらいいのでしょうか？いったい何をもって正確というのでしょうか？

ここで、カービング（減らしていく造形）であることをしっかり認識しましょう。彫る場合一番大切なのは彫らないところ、つまり木の最大量を必要とする部分です。

正面の場合はこの部分①4か所、ここがきちんと木の端に接しており、明確にその境目があるかを確認してください。彫るという作業は、最大量からの引き算、一番大事なのはまずは彫らない所、この部分です。

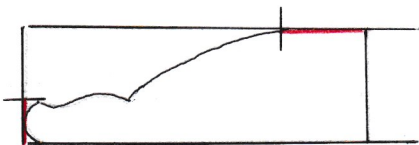


次に先端の形をかんがえてみましょう。②.....、ここが指の付け根です。そこから指は先端に行くにつれて細くなりますね。それが、③のこの形。// そして、足は人差し指が一番長いので、その両脇、親指側、小指にかけてそれぞれ短くなります。それが④この形です。//

「指って先端に行くと細いよね、人差し指が一番長いよね。」という意識が明確にあれば、何も考えずに書いたものより図面ははるかに正確なものになっているはずですよ。

あとは両側面に横の図面を描けば、図面書きは終了

ただし、甲、足の平をしっかり押さえて左右彫る足を間違えないように書いて下さいね。



最後にもう一つ、正面と側面ずれたら困るので、足の終わりの位置4面全部に線を引いてから図面書き始めることをお勧めします。

ただ図面を描くだけでも、そこに明確な意思があるかないかで、その精度が全く変わってきます。

彫刻とはつけることのできない造形、本当に正確に引き算をしていかなければなりません。そのためにも、なんとなくではなく、その一つ一つの段階でなるべく一つ一つの意味を理解して、正確に作業する努力をしていってください。ただ真似をするのと、一つ一つ自分で考えてから彫るのとでは、将来的にもものすごく大きな差が出てきますから。